【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成18年12月7日(2006.12.7)

【公開番号】特開2005-131631(P2005-131631A)
【公開日】平成17年5月26日(2005.5.26)
【年通号数】公開・登録公報2005-020
【出願番号】特願2004-174461(P2004-174461)
【国際特許分類】
Ｂ０９Ｂ　3/00　(2006.01)
Ｃ０２Ｆ　1/46　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ０９Ｂ　3/00　ＺＡＢＡ
Ｃ０２Ｆ　1/46　Ｚ
Ｂ０９Ｂ　3/00　３０４Ｚ
Ｂ０９Ｂ　3/00　３０４Ｐ

【手続補正書】
【提出日】平成18年10月20日(2006.10.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
以下に本発明による生分解性廃棄物のリサイクル装置の実施例を図によって説明する。図１に本発明に使用する生分解性廃棄物の処理装置の構造を示す。図1において、本発明による生分解性廃棄物の処理装置は、処理チャンバー５と、蒸気管９と、熱交換器６と、循環・加圧ポンプ１３と、触媒酸化装置７と、電極電解装置８との組合せからなるものである。処理チャンバー５は、内部投入された生分解性廃棄物を処理する槽である。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１９】
処理チャンバー５と、熱交換器６間は蒸気管９で接続されている。蒸気管９は、処理チャンバー５下部の蒸気送入口１０と、上部の蒸気送出口１１とをつなぐ循環管路であり、管路内には熱交換器６が接続され、上部の蒸気送出口１１側の管路内には循環・加圧ポンプ１３が接続されている。また、蒸気管９には、熱交換器６に通じる配管と並列にバイパス管１４が接続され、熱交換器６に通じる蒸気管９の配管と、バイパス管１４とは開閉弁１５、１５によって、管路が切り替えられる。すなわち、熱交換器６に通じる蒸気管９の配管と、熱交換器６がないバイパス管１４とは選択的に管路が切り替えられて処理チャンバー５に接続され、熱交換器６に通じる蒸気管９の配管が処理チャンバー５に接続されたときには、蒸気管９内の水分は、熱交換器６にて加熱または冷却され、バイパス管１４が処理チャンバー5に接続されたときには、処理チャンバー５内の蒸気は、バイパス管１４を通じて循環する。